

MSJ-KMS Joint Meeting 2021 報告

MSJ-KMS Joint Meeting 担当理事・法政大学理工学部

寺杣 友秀

MSJ-KMS Joint Meeting 2021 は 2021 年 9 月 13 日行われた。これは 9 月 14 日から 17 日で行われた、千葉大学秋季総合分科会の前日になる。千葉大学での秋季総合分科会がオンラインで開催されたことに伴い、MSJ-KMS Joint Meeting もオンラインで行われた。

オンライン開催は Zoom のウェビナーをもちいて行われ、午前中は全体のウェビナー会場で日韓数学会理事長、会長により開会の辞、歓迎の辞が贈られ、その後、日本からは河東泰之氏、韓国からは Inkang Kim 氏による基調講演が行われた。筆者には河東氏の講演を聞くのは久しぶりであったが、幅広い分野を意識された、印象的な講演であった。午後からは「代数」、「幾何・トポロジー」、「解析」および「確率論・応用数学」の 4 つの平行セッションがウェビナーで行われた。

午後の各セッションでは日韓両国から、その分野の若手と中堅の講演者による招待講演が行われた。

ポスター制作とウェビナーの運営にあたっては創文印刷に業務を委託し、綿密な打ち合わせのもと、滞りなく Joint Meeting が行われた。参加に必要な事前登録は、8 月の始めから始まった。事前登録は日本側の出足がおそかったものの、ほどなくして韓国に追いつき、最終的には事前登録者は日本側 195 名、韓国側 93 名の合計 288 名となり、まずまずの参加人数となり成功だった。本来なら韓国の方々には日本にお越しいただき、日本を堪能していただきたいところであるが、このご時世では致し方ない一方、オンラインであることにより、韓国からでも気軽に参加できるという利点はあったかと思う。当初計画されていた KMS 会員の一般講演への参加はオンライン開催のため見送られた。

今回の MSJ-KMS Joint Meeting は、第 1 回目の 2012 年（九州大学）、第 2 回目の 2016 年（ソウル国立大学）に引き続き、3 回目の開催となる。第 2 回目ソウルでの Joint Meeting は韓国数学会 70 周年に合わせておこなわれた。このシリーズはこれまで 4 年おきに行われていたこともあり、当初は 2020 年 9 月に行われた熊本大学での秋季総合分科会で開催される予定であった。熊本大学での MSJ-KMS Joint Meeting の開催に先立ち、2019 年の金沢大学秋季総合分科会の開催の際に KMS の会長である JongHae Keum 氏と KMS 側の世話役の Yongnam Lee 氏に会い大卒の打ち合わせをした。両者は日韓の交流のために数学会の秋季総合分科会に KMS の代表が金沢に滞在していたのである。金沢の学会では数学会側の世話役の清水扇丈氏と

熊本大学の学会の実行委員長である原岡喜重氏とも打ち合わせをした。これはコロナウイルス騒ぎが起きる前の話である。

その年の暮れに始まった新型コロナウイルス感染症も年が明けて世界的な流行となり、日本大学理工学部の 2020 年度年会に引き続き熊本大学の秋季総合分科会もオンライン開催となった。熊本大学の学会がオンライン開催となった事にあわせて、MSJ-KMS Joint Meeting は 1 年延期され、千葉大学で行われることとなった。当時は 1 年延期して、コロナ感染拡大も収まったところでゆっくり日本に来ていただこうと判断したのだ。その頃は 2021 年秋には韓国の人を招き開催できる可能性も信じていたわけで、2021 年に延期された東京オリンピックが開催できるようであれば、数学会も開催できるのではないかという甘い期待もあった。実際は 2021 年 4 月に始まったワクチン接種が当初の計画の様に進まず、コロナ感染拡大は衰えをみせなかった。2021 年 5 月 15 日に臨時理事会を招集して、千葉大学のオンライン開催を決定した。巷では「安心安全な開催をする」という標語が踊り、多くの反対もあった中でオリンピックは開催され、その後 8 月下旬に大きな感染爆発が引き起こされた。このことを考えると、9 月開催の千葉大学でのオンライン開催が早めに決定できたことは結果的にはよかったのではないかと思っている。Joint Meeting の世話役だった清水氏が慶應義塾大学における年会での投票で理事長に就任することとなり、当方が MSJ-KMS Joint Meeting の世話役を受け継ぐこととなった。千葉大学での学会はオンライン開催となったが、MSJ-KMS Joint Meeting については対面で行うことに意義を見出し、一年延期をするか、あるいはオンラインで開催するか、という選択肢があった。結果としては、オンラインでの開催をすることに決定した。一年以上前から決まっている招待講演者にさらにもう一年講演を待ってもらおうということに抵抗を感じたからだ。

千葉大学における学会開催では社会における Zoom などのオンラインツールの普及によりオンライン学会への心理的抵抗感は薄れてきたところでもあり、事務局のオペレータの業務委託のしかたも経験値が上がってきており、MSJ-KMS Joint Meeting は滞りなく行われた。

延期とオンラインへの変更を経験した今回の MSJ-KMS Joint Meeting の報告を書くにあたり、コロナ騒ぎにかき回されたこの 2 年間でどうであったかを振り返らざるを得ない。

2019 年金沢の秋季総合分科会を最後にそれ以来、対面での学会はいまだに実現されていない。原稿を書いている現時点で、埼玉大学の 2022 年度年会は対面開催が予定されているが、オミクロン株が猛威をふるい始めており、予断をゆるさない状況である。今回はオンラインの開催となってしまったが、次回の日韓数学会の Joint Meeting は 2023 年にリベンジということで、日本での開催を現在検討中である。まずは対面での学会開催のできる日が来ることをこころより願うばかりである。